

## 校内ポスター作成における情報デザインの指導 ～非アート系の教員による「情報の可視化」の実践報告～

神奈川県立横浜清陵総合高等学校 情報科教諭 五十嵐 誠  
Blog：総合学科「情報」日誌 <http://arashi50.cocolog-nifty.com/>

### 1. はじめに

行事の案内のポスターや文化祭や体育祭の校内新聞などを、DTP (Desktop Publishing) を学ぶ選択授業で制作しています。情報科の授業なので、アートの指導ではなく、かたちのないもの、目に見えないものを見えるかたちにする「情報の可視化」として捉えています。

この授業で指導しているセオリーと作品例を紹介させていただきます。

### 2. 学校紹介

横浜清陵総合高校は、平成16年に2つの普通科高校の再編により開校しました。情報科学系など6つの系列があり、必修科目以外は興味関心や進路に応じて自由に科目を選択することができる全日制の単位制総合学科高校です。

本校では、カリキュラムの背骨にあたる4つの特色科目を設置しています(丸数字は単位数)。

- ・産業社会と人間(1年次②総合学科必修科目)
- ・コミュニケーション(2年次②学校設定科目)

- ・視点(2年次①総合的な学習の時間)
  - ・探求[課題研究](3年次②総合的な学習の時間)
- 生徒は、これらの科目を通して社会と自己を知り、興味と進路を考えながら科目選択をし、将来に向けての基礎作りをしていきます。

### 3. 行事新聞と発表会ポスターの効果

学校設定科目「DTP入門」では、WordとPublisherという身近なソフトで紙媒体の表現活動を扱います。例年、文化祭と体育祭の新聞作りを行っており、全作品を掲示しています(写真1)。

年間を通じて立ち読みする生徒が多く、新入生は学校の雰囲気を知ることができ、3年次生は最後の学校行事への構想を練っています。

4つの特色科目では年度末に年次内の発表会を行い、その中から選出された代表による全校での学習成果発表会を行います。これらの発表会のポスターは「DTP入門」「DTP活用」の受講生が作成し、会場となる多目的ルームの扉や廊下のいたるところに掲示されます。生徒は発表会の日程を確認しながら、モチベーションを高めて準備を進めることができます。また、上級生は過去に学んだことを振り返る効果があります。

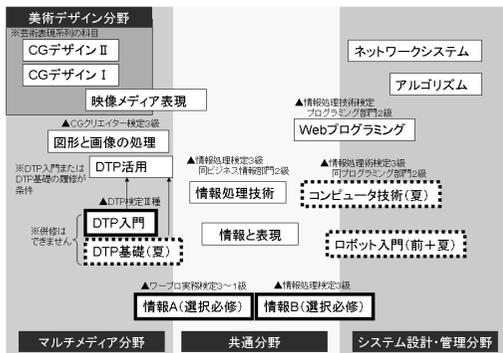


図1 情報に関する科目(体系図・上が高度)



写真1 文化祭と体育祭の新聞の掲示



写真2 発表会のポスター

#### 4. DTPの授業で指導しているセオリー

通年の科目「DTP入門」と短期集中講座の「DTP基礎」では、前半は、テキスト『Microsoft Wordレイアウトデザインガイドブック』（オラリオ）を利用して基本的な技術と知識を習得します。Word2003対応ですが、このテキストに込められている汎用的な技術と知識が、指導のベースになっています。

##### (1) ラフスケッチを描く段階

- ・必ず原寸のラフスケッチを描く。
- ・要素をグループ化し、紙面を分割してレイアウトする。
- ・使用する写真は、簡単なイラストで雰囲気がわかるように描く。
- ・写真素材を選ぶ際には、トリミングして使うことを想定して、レイアウトを考える。
- ・横向きの人物写真では、紙面の中央を向くように、レイアウトの位置を決定する。
- ・テキストの行長が長すぎる場合は、段組みを考える。無理な場合は、行間を広げる。
- ・画像、見出しとも、主役と脇役のメリハリをつける。思い切って差をつける（ジャンプ率）。
- ・グリッドシステムを意識して、配置を揃える。
- ・テーマ色を決めておく。メインで使用する写真の中で使われている色を選ぶと失敗しない。
- ・上から下のように、紙面に合わせて目を誘導する工夫をする（誘目性）。

##### (2) 画面でレイアウトする段階

- ・ワードアートは絶対に使わない。
- ・オートシェイプは基本図形以外を使わない。
- ・長方形を使って、写真などのアタリをつける。
- ・写真とテキストボックスの縁を一直線に揃える。
- ・テキストボックス内の余白は、基本的に0にする。
- ・写真や枠線とテキストの間には適切な余白を設定する。
- ・テキストボックスに地色を設定する場合は、可読性を確保するためにテキストボックス内の余白を設定する（書式設定＞テキストボックス）。
- ・本文と同じ幅の白抜きの見出しを活用して、本文と見出しのまとまり感を演出する。
- ・色は使い過ぎない。1つの色相から明度だけを変えて使うと色数を抑えることができ、相性がよい。
- ・テキストと背景の色は、明度の差をつける。

##### (3) フォントの選択

- ・タイトルや見出しに適したフォント、本文に適したフォントを選ぶ。本文は、すっきりした文字にする。
- ・作品全体を同じフォントファミリーで揃える。
- ・くだけた内容でない限り、ポップ体は見出しにも使わない（ポップ体は商品札用のフォント）。

##### (4) 配置後の微調整の段階

- ・必ず印刷して、色味と可読性を確認する。
- ・揃えるべきラインは揃える。
- ・余白のバランスが取れているか。
- ・適切な行長、行間値となっているか。
- ・フォント・文字色による可読性の向上を考える。
- ・アクセントカラーが効果的に使われているか。
- ・タイトルや見出しの大きな文字では、見た目の文字間が一定になるように、文字間隔を調整する。また、2行になるタイトルは行間を狭く設定する。



写真3 指導例

## 5. 指導例

発表会のポスター作品を使って、具体的な指導と改善の事例を示します（写真3）。

発表会場に入る場面をイメージしてイラストを使っていますが、左の作品ではタイトルに訴求力が欠けているようです。タイトルのフォントの種類、文字組み、地との明度差をアドバイスしたところ、右のように改善されました。

このようなビフォー・アフターの実事例を示すことは指導上の効果が高いと感じています。

## 6. 校内ポスターの制作で指導するポイント

ただ日時と場所を告知するだけでなく、発表する生徒も発表を聞く生徒も、発表会が楽しみに感じるようなポスターを作ることが課題です。発表会に参加するイメージを持たせるため、実際に会場のステージに立たせるなど、作業するPCの前から引き離すことも効果があります。

素材として、イメージを高めるイラストと気の利いたキャッチコピーを利用することを指導します。適切な色づかいも大切なので、最初にテーマカラーを決めさせています。

特に、イラストはフリーフォームのベジェ曲線<sup>\*1</sup>を使って作成したオリジナルのものに限っています。拡大縮小と修正が容易なので、生徒はすぐに利活用していきます。

## 7. 過去の作品の活用

校内ポスターは、翌年の作品ができるまで一年中掲示しておきます。また、校内Webでは、過去の全作品を閲覧することができます。過去の作品を活用すれば、非アート系の教員がセオリーを教えるだけでも生徒は育っていきます。

## 8. 生徒活動へのDTP技術の普及

授業で身につけた技術は、部活動勧誘や委員会、生徒会のポスターに活用されています。写真4は、生徒会役員がフリーフォームで作った20種のキャップをレイアウトして作った作品です。キャッチコピーにも工夫が見られます。

## 9. 授業担当者として

作品は全て公開することを前提に、素材は自作するように指導しています。提出された全ての作品を掲示していますが、最近は、作品をセミ光沢紙に印刷してラミネート加工しています。耐久性が増すだけでなく、発色が良くなるので、生徒からも好評です。

私自身はアート系のデザイン能力が乏しいのですが、生徒の作品に助けられながら授業を楽しんでいます。情報の授業が「学校づくりをデザインする」ことに役立っていると実感しています。



写真4 生徒会の作品

\* 1 Blog「総合学科情報日誌」のコンテンツ「ベクトル描画の手ほどき」参照  
<http://arashi50.cocolog-nifty.com/photos/vector/index.html>